

令和3年度 環境啓発施設連携会議 活動報告

第17回 令和3年5月13日(木)から5月18日(火)まで

場 所: 書面開催

内 容: むさしのエコreゾートの貸出ルール、サポーター事業について

回 答: 意見無しも含めて約10件

以下抜粋して掲載

貸出ルールについて	<p>エコreゾートは単なる貸出施設ではありません。エコreゾートの運営理念に沿った利用でなければ、利用させる意味がありません。したがって、利用申し込みの一つひとつについてきちんと内容を確認し、望ましい利用になるようなスタッフのファシリテーションが欠かせないはずです。</p> <p>そのためには、仮申請の段階で、どのような利用内容なのかスタッフが確認し、場合によってはその内容について、本当にその利用方法がよいのか、利用場所はそこでよいのか、もっと効果的な方法、場所、備品の活用方法があるのではないかとといった相談、調整を行う必要があるでしょう。場合によっては、抽選の前に利用場所日時が重なる希望者と協議するよう促したり、その中で連携して、一緒に行えばもっと効果的といったことがあるかもしれません。</p> <p>仮申請から本申請の間に、「協議」というステージを設けて、必ずスタッフと事前協議をした上で本申請しますという手続きを明確化してください。それをきちんと利用したいと思う市民に示しておくことが何より重要です。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・団体登録名簿は、武蔵野市の在住・在勤・在籍者を50%以上とする。 ・登録認定書発行。 ・施設利用時は、登録者は、団体毎の名札を付けて学習や作業をすること。 ・団体登録は、3年毎に登録更新を行うこと。 ・施設の利用回数料は、1団体に付き、月に2回までとする。 ・利用後は、活動日誌等を提出する。
	<p>これで施行し不備(問題点)があればその都度改めていく。実際に一定期間施行してみなければわからない点が多々あると思う。</p> <p>大切なことは、その時立ち止まり考える事。</p>
	<p>市民が気軽に利用できることが一番だと思います。</p> <p>正式な申請はよいとして、「明日使用したい」「当日使用したい」などの場合、どれくらい気軽に利用できるのか知りたいです。</p> <p>そして、そのような「気軽利用」が可能であると嬉しいです。例えば、窓口で「今日利用したいです」とは言えますでしょうか？あるいはネットから空き状況を確認し、申請→利用のような流れはできるでしょうか？</p>

サポーター事業について	<p>研修について、登録に際しての研修の大まかな内容を見出しただけでも示した方がよいと思うのと、サポーターとして活動してもらった後も、研修の機会があるとした方がよいと思います。</p> <p>無償のボランティアなので、それなりに意識がある方が応募されると思いますが、サポーターをすることで「学べる」ことをメリットに捉えられる人を募集するのは意味があると思います。そのためには研修プログラムを作らなければなりません、それこそ、我々のような市民と連携すればいろいろなことが考えられるのではないのでしょうか。</p>
	<p>サポーターについては、あまりハードルを高くしないこと。来場者の居場所づくりに配慮でき、上から目線ではなく、一緒に考え交流する。コミュニケーション能力が重視されるべき。</p> <p>答えを提供するのではなく、来場者が自ら試行錯誤しながら答えを求めていく姿勢に寄り添うことが大切と思う。</p>
	<p>サポーターは、次の 2 種類を作る。</p> <p>①無料者（登録団体の中で作業をする人物。）</p> <p>②有料者（知識・技術・経験を持っていて、エコreゾート全体の行事や活動の企画、立案、実行を行なう人物。）</p>
	<p>サポーター制度については、いろいろな意見が出ております。確かに</p> <p>(1) 施設の管理運営と</p> <p>(2) 環境啓発事業の企画・運営</p> <p>では質が異なるように思われます。ただ、エコ re ゾートが単なる楽しい集いの場所ではなく、武蔵野市が都内 23 区の環境を守る最前線基地としての役割を果たそうとするなら、それは想定されているようなサポーター制では無理で、提案のとおり新たな人材（育成）が求められ、別組織が必要かと考えます。</p>

サポーター事業について	<p>「サポーター」という概念について理解してもらう必要があると感じました。</p> <p>市民の方がこれまでの自分の経験の中からイメージしやすいのは「ボランティア」か「アルバイトスタッフ」なのではないでしょうか。それをイメージしながら募集要項を読んでいくと「？」と感ずることが多くなるような気がします。</p> <p>「サポーターって何？」</p> <p>「サポーター」の概念をまず伝え（分かりやすく示し）そのうえで受けてもらえるかどうかのように感じました。「サポーター」について知っていただき、それが浸透するまでには時間がかかるとは思いますし、その方法も工夫する必要があります。</p> <p>募集のチラシだけでは「サポーター」とはどんな役割をするのか、何を求められているのか、どのように自分を発揮できるのかが分かりづらいかもしれません。具体的なイメージ、「Aさんの場合」「Bさんの場合」のようなものがあると理解しやすいのではないかと思います。</p>
	<p>サポーターは「無償」とのことですが、交通費は実費支給されたいかがでしょうか。ボランティアを続けてもらうには、「次もまた行こう」と思ってもらうしくみが必要で</p> <p>基本的にはエコの施設なので徒歩あるいは自転車が望ましいですが、雨天時は自転車利用を止め、躊躇なく公共交通を使うことを選んでもらうように。また、ある程度スキルを身につけてきた場合には、協力費（助手手当？）として幾ばくかお支払いすることも考えたいかがでしょうか。</p>
	<p>先ず研修から始める必要があると 考えます。</p> <p>その手続きについて知りたいです。</p>

※その他、施設の運用や団体展示などについてご意見をいただいたが、記載していません。